

行云流水

No. 3 6 6 令和6年2月1日発行

時間の使い方は、そのまま命の使い方である

校長 寒河江 正人

生徒諸君、本日から**2月**だ。
暦の上では、もうすぐ「**立春**」。

日頃から

「学習」「スポーツ」「文化・芸術」「ボランティア活動」に励む諸君に敬意を表す。

さて、授業日数は、残すところ**あと28日**。

諸君一人ひとりの一日は、**何ものにも代えがたい貴重な一日**である。

1年生の教室には

「**時間の使い方は、そのまま命の使い方です。**」という言葉が掲示されている。

学校法人ノートルダム清心学園理事長を務められた**渡辺和子シスターの言葉**らしい。

ふと足を止めて、いつもこの言葉を見るたびに考えさせられる。

「**私は、自分に与えられた命の時間を大切に、ていねいに使って生きているだろうか？**」

渡辺和子シスターの著書には

「この世の中には「**雑用**」というものはありません。」

「**私たちが用事を雑に扱ったときに「雑用」が生まれてしまうのです。**」

「**そんな時間を使うと、そんな人生が残ります。**」

「**ていねいな時間を使うと、ていねいな人生が残ります。**」

「**どうしても咲けないときもあります。**」

「**雨風が強いとき、日照り続きで咲けない日、そんなときには無理に咲かなくてもいい。**」「**その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。**」

「**次に咲く花が、より大きく、美しいものとなるために。**」という言葉もあります。

さあ、「**一日一生**」の思いを込めて、大切に、ていねいに生活しましょう。